

令和4年度刀根山支援学校運営協議会 第2回会議 議事録

日時：令和4年11月8日（火） 15：00～16：30

場所：本校：多目的ホール

出席者：井村 修、山田 亨、齊藤 利雄、川見 ゆか（学校運営協議委員）

高河原 健、高原 浩徳、大井三津子、澤井 啓祐、三澤 誠一、船木 雄太郎

桑名 智寛、池上 真由、橋岡 正樹、阿部 壮太、小山 輝雄（事務局員）

欠席者：平賀 健太郎、河西 ゆかり（学校運営協議委員）

1 学校長挨拶

2 報告・連絡

(1) 令和4年度 学校経営計画の進捗状況について

校長：「1. 切れ目のない支援の推進」

- ・研究教科会を夏休み、冬休みに実施。また各教科 WEB でも実施。研究授業も実施し、研究教科会での報告予定。
- ・分教室間での WEB 交流・社会見学を実施。社会見学は全部署が参加。
- ・ロボットプログラミング選手権に2チーム参加予定。
- ・高校生によるパソコン交流会に50名が参加し大盛況。昨年度の反省を活かして生徒主体で考えた。刀根山高校のパソコン部の生徒も参加
- ・進路指導が必要な生徒への進路講話・職場実習など積極的に実施。
- ・地域校への授業見学の実施。リモートを使つての引継も実施。

委員：生徒主体のプログラミングの学習会で、前回の反省をどう活かしたのか。生徒の主体性を養ういい取組であるので、ぜひ続けていってほしい。

学校：アンケートの意見を参考に、時間配分を調整。オンラインの参加の方にもわかりやすさを追求。

委員：ホームページも拝見し、ICT の取り組みでは素晴らしい実践をしている。学校経営計画にもものせては。

校長：ありがとうございます。

校長：「2. 専門性の向上と支援の継承」

- ・セミナーの開催では、一部署は延期となったが、その他の部署は実施。阪大の研修も2年ぶりに実施できた。滝井セミナーを WEB で実施。500名が参加。
- ・実践報告集の作成。令和3年度版は、先月完成。研修支援部を中心に3月末までに今年度版をまとめる予定。HPにも掲載予定。
- ・校内研修の実施。「筋ジスの理解と教育」を活用してノウハウを継承していきたい。リーディングスタッフの派遣、計23回実施。
- ・刀根山スポーツルール集の作成・改訂を進める。
- ・全病での発表。
- ・「わになるシート」の活用。精神分教室、滝井分教室で使用。
- ・先進校訪問を3校。桃陽、けやき、武蔵台へ派遣。

委員：評価について、クリアできている項目については、「◎」でよい。

委員：冊子「筋ジスの理解と教育」の最終改訂はいつか。写真が古いのではないか

学校：2年前に改訂。

校長：「3. 安心・安全な学校づくり」

- ・各病院と医教連絡会を毎月実施。今年度から循環器病センターも新たに実施。
- ・個別の教育支援計画の様式の一部を改訂。一部署改訂したため、全部署でも検討。
- ・個人情報紛失1件発生。個別の教育支援計画の紛失。原因を究明し記載内容の改訂を行う。
- ・人権研修の実施。3回目は冬休みに実施。
- ・いじめ防止委員会、毎月実施。

- ・避難訓練を実施。各部署で実施。備蓄品の確認を行い万全の体制を整える。
- ・WEB連絡会を月1回実施。
- ・教員間の教材の共有を行う。

委員：先週高等学校の運営協議会で話題になったが、Jアラートの訓練について刀根山ではどうなっているのか。また、避難する際に車いすでの校外で避難できるルートの確認はしたのか。

校長：Jアラートについては、本校では避難訓練は実施していない。実際にどのような行動をとるのか、子どもに周知しておくのか、また教員がどのような対応をするのかお答えできない状況。今後検討していきたい。

避難経路については、昨年度校外の避難経路を生徒が車いすを使って避難させる練習を行った。生徒は怖さを感じた場所があった。段差については、スロープを設置。生徒一人での避難は難しいので教員の付添いは必要。落ち葉で滑りやすい箇所もあったので病院と協議。

委員：アスファルトが割れているところありましたか。

校長：スロープを入れているが、急な坂になってしまう。病院の敷地内。

(2) 各部署の報告

本校訪問：

- ・今年度から本校、訪問が合体。在籍数は多い。行事、進路学習を実施。T-NETを活用。
- ・第7波では、オンライン授業を試行錯誤しながら実施。現在は対面授業が実施できているが、第8波に備え準備している。
- ・各病院と連携して授業を実施。学会で訪問教育の紹介を行い、教育についての理解を促した。
- ・全国の病弱支援学校との連携。メタバースでの登校を認めてくれている県がある。
- ・復学支援として地域校との交流を実施。kubi(アバターロボット)で授業に参加。
- ・授業内での「発表」への取組。手をあげてしゃべる、集団授業の体験を取り入れた。
- ・地域校行事の運動会にkubiで参加。子どもの方がロボット慣れしている様子。
- ・本校の体育祭に、訪問の子どもが応援メッセージをつくり参加。
- ・夢水族園の実施。全部署に配信。よかったという感想が多かった。

精神：

- ・運動会、学習発表会を実施。初めて行事に参加できた子どもがいた。羽曳野支援学校阪南病院分教室と教員同士の交流を実施。児童心理治療施設併設の分教室を見学。他府県の支援学校の見学訪問を実施予定。

阪大：

- ・在籍は年度初めから10名前後で推移。現在少なくなってきた。長期入院の子どもが多い。行事はコロナでの制限がありデイルームを使うことはできない。学習発表会については映像を撮って後日見てもらう予定。行事の再開を目指す。エンタランスルームに作品を展示。研修会を参加者制限のもと、白血病をテーマに実施。多くの参加希望があり、研修も好評。

滝井：

- ・滝井セミナー、610件の申し込み。教職員の1%を超える。起立性調節障害に罹患する子どもが多い。地域の学校の話で、クラスに3名いるとの学校もあり個別に対応できないという声もあった。セミナーではドクターから専門的な治療の必要性や学校での対応方法を学ぶ機会となった。分教室では劇的な変化を遂げる児童生徒も

いる。同じ病気で入院中の子どもたちなので、仲間がいて分かち合えることがよかったと思われる。

枚方：

- ・在籍について、教室定員があるなか、在籍数は多く、他部署からの応援をもらっている。感染対策のため行事は実施できていない。チャイルドライフスペシャリストが配属され情報を共有。WEB 行事を実施。オンライン授業も実施。10 月につるみホスピスの見学を実施。

委員：チャイルドライフスペシャリストとは？

学校：病気療養のある子供の治療の拒否感を緩和する、海外でしか取得できない資格。

(3) 学校教育自己診断について (別紙)

学校：実施要項の説明。

学校：保護者に配布の自己診断票の 15 番「保護者間で交流する機会がある」の質問項目について審議。過去、本校の在籍数が多いときに反映された質問項目と思われるが、現在の学校の実態に合っていないので削除を提案。

委員：質問項目は、実態に合うようにすべき。無くしてもよい。

『削除』で、協議委員が承認。全員一致の意見

3 その他

R5 年度の教科書について、報告。